

タイ経済指標斜め読み

(2025 年 11 月版)

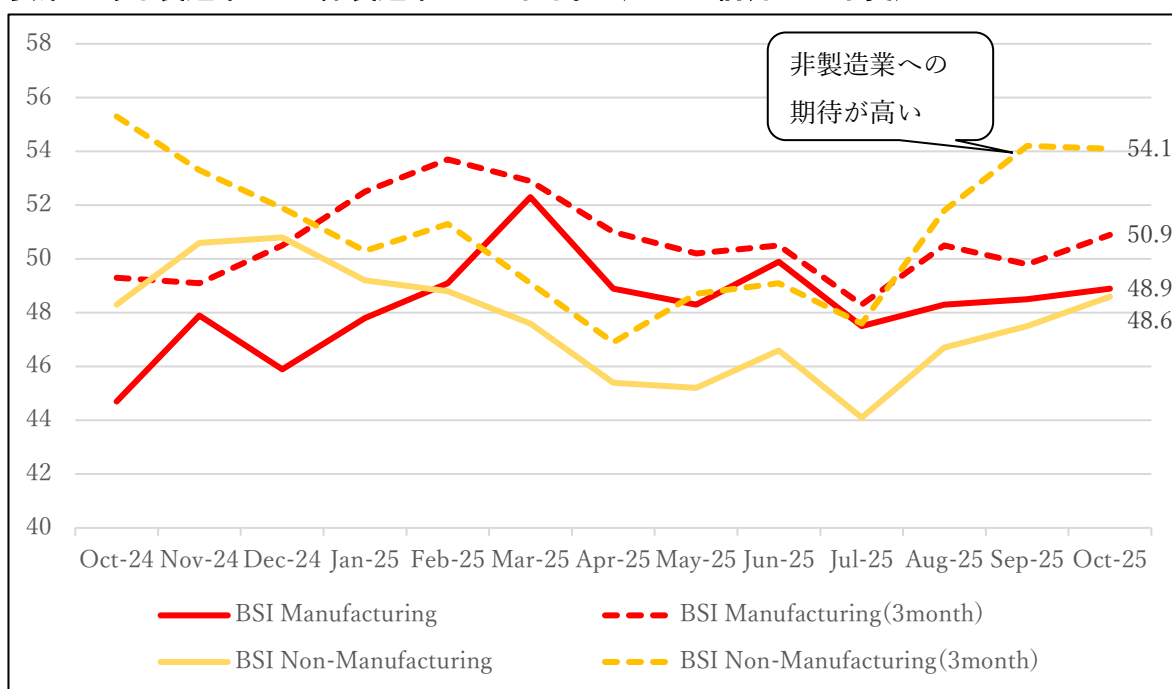
ビジネスサポート部

加藤義人

kato@mat.co.th

■No. 1 ■【指数データ】景気指数

タイ中央銀行（BOT）は、10月のビジネス景況感指数を発表した。下グラフはその構成要素である製造業BSIと非製造業BSIとなる。（50＝前月から不変）

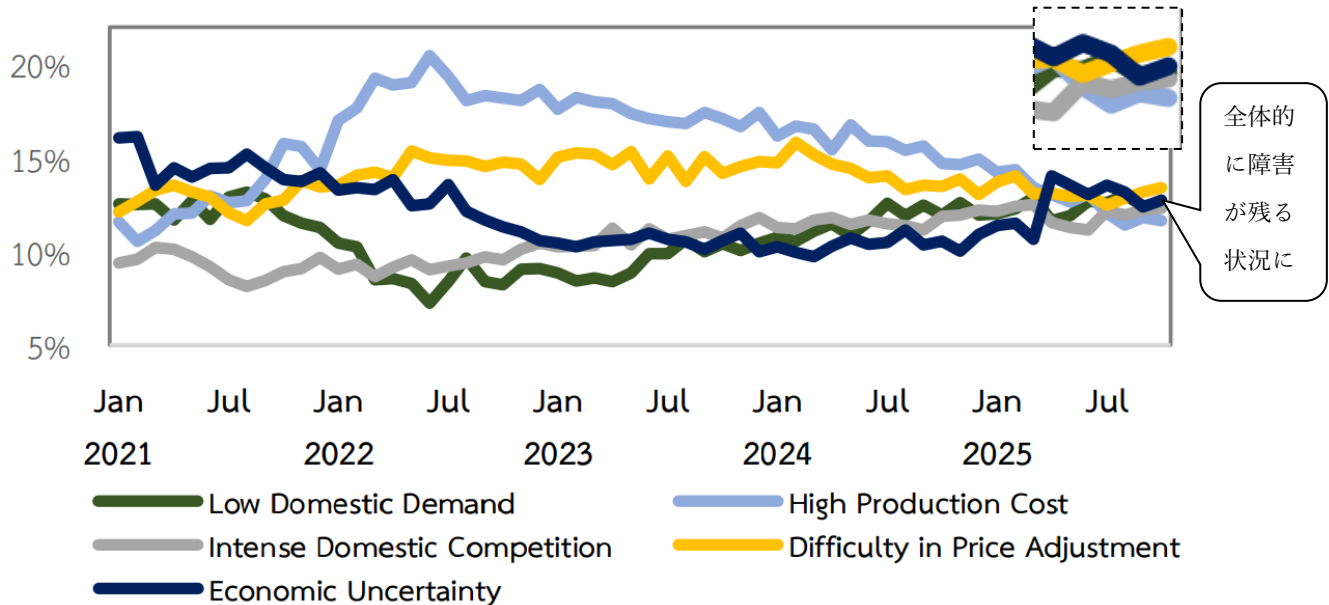


10月のBSI製造業は48.9、同三か月後の期待値は50.9、続いてBSI非製造業は48.6、同三か月後の期待値は54.1となった。10月の両BSIは二カ月連続で改善した。要因として、製造業では自動車生産の2025年生産目標に合わせて増産となった。一方、電気製品は海外からの安価品に押されて苦戦となっている他、缶詰製品や冷凍食品などは米互惠関税の影響で減産となっているとのこと。次に非製造業だが、観光シーズン到来や政府の景気刺激策の効果で、国内のホテルやレストランの景気回復が見られ、それに伴い消費財などの売れ行きも改善しているとのこと。今年いっぱいはこの傾向が続くものと思われる。とは言え、「良くなった」を示す50にはまだ至っていないが、11月には突破することが期待される。

出所：<https://www.bot.or.th/>

■No. 2■【調査データ】経営上の障害

タイ中央銀行（BOT）は、10月の経営上の障害に関する調査結果を発表した。これは、BOTがタイ国内の大中企業698社から回答を得たものとなる。

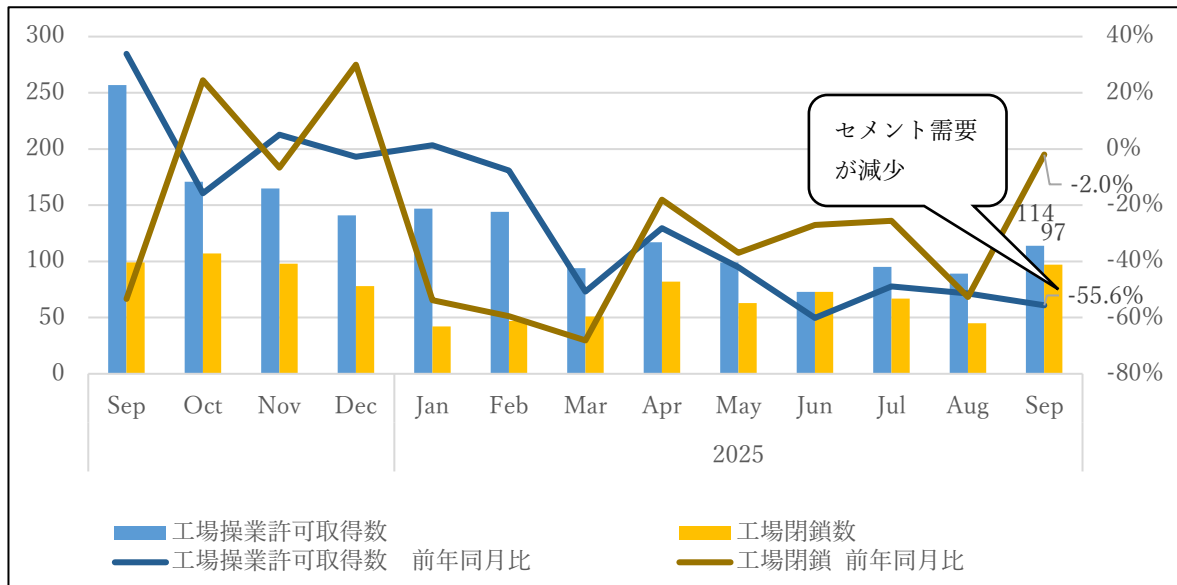


10月の経営上の障害で最も多かったのは、「価格調整の難しさ」となった。次に「経済の不安定さ」と「国内消費の低迷」が同着となり、「国内競争の激化」が続き「製造増コスト高」が最後となった。10月に入っても、国内の消費が落ち着かず、物が売れない状況が続いている模様。唯一、製造コストだけが右肩下がりとなっているが、パーツ高で原材料費が抑えられていることや政府主導で燃料費が安定しているため。一転、明るい理由を上げると、回答割合が10～15%の範囲に全て納まっている状態で、大きな懸念もなければ改善もないと言ったところだろうか

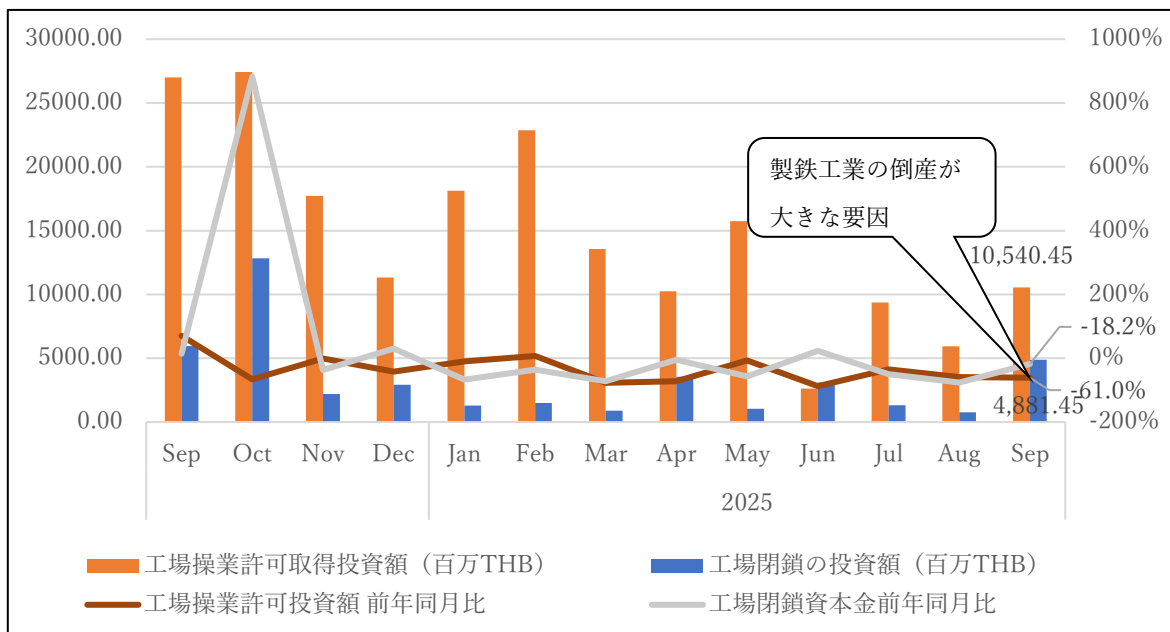
出所：<https://www.boj.go.th/>

■No. 3 ■【統計データ】工場新規・閉鎖数

タイ工業省工業事業局（DIW）は、9月の新規工場操業許可申請数（同投資額）と閉鎖数（同投資額）を発表した。



9月の新規件数は114件、前年同月比－55.6%、工場閉鎖数は97件、前年同月比－2.0%になった。新規は昨年比で半減した。新規で最も多かったのは、冷凍食品用倉庫で5件となったが、次に閉鎖で最も多かったのは、砕石関連業の10件であった。砕石工場の閉鎖が多かったとはいえ投資額は低く限定的。新規が停滞しているのは、トランプ関税の影響で対米向け輸出が減少すると見込む企業が設備投資を保留している向きがある。



次に、投資額であるが、新規の投資額は10,540Mil THB、前年同月比－61.0%、工場閉鎖の投資額は4,881Mil THB、前年同月比－18.2%で、共に減少となった。投資額で最も多かった業種は家畜用飼料工場が1件、3,200Mil THBの投資額だった。次に、閉鎖工場で最も多かったのは製鉄関連の2件で、合計1,636Mil THBの投資額であった。中国からの安価な製品の輸入にて価格競争について行けず、閉鎖に追い込まれたと推測される。

筆者紹介：2001年にタイ日系IT企業の責任者として赴任後、バンコク日本人商工会議所、タイ邦銀支店
関連子会社などで企業・経済調査などを経験し2018年MAT社に入社、現在に至る。アメリカ、香港、ミ
ャンマー、タイなど海外在住歴は30年以上。

2025 Material Automation (Thailand) Co., Ltd. All Rights Reserved.

本データは情報提供を目的として作成されたものであり、営利を目的としたものではありません。作成時点で、MAT社ビジネスサポート
部が信ずるに足ると判断した政府が発表するデータに基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通
しは予告なく変更されることがあります。掲載内容は毎月変更されます。報道目的以外での引用・転載については当社までお問い合わ
せください。